

[First Hit](#)[Previous Doc](#)[Next Doc](#)[Go to Doc#](#)

Generate Collection

Print

L37: Entry 2 of 4

File: JPAB

May 31, 1994

PUB-NO: JP406152513A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 06152513 A

TITLE: SYSTEM DATA REGISTERING METHOD FOR RADIO TELEPHONE SYSTEM

PUBN-DATE: May 31, 1994

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

HONDA, TOSHIO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

NEC CORP

APPL-NO: JP04302106

APPL-DATE: November 12, 1992

US-CL-CURRENT: 379/100.15; 455/74

INT-CL (IPC): H04B 7/26

ABSTRACT:

PURPOSE: To register the system data of the main device of a radio telephone system by transmitting data from a facsimile equipment.

CONSTITUTION: When a transmission original for system data registration whose format is preliminarily decided is transmitted from a facsimile equipment 1 through a line 3, the data received through a facsimile interface part 22 in the main device 2 are converted from PCM data into facsimile data by a data converting part 24, analyzed and converted into the system data, under the control of a control part 26. The converted and analyzed system data are registered in a storage part 25.

COPYRIGHT: (C)1994, JPO&Japio

[Previous Doc](#)[Next Doc](#)[Go to Doc#](#)

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-152513

(43)公開日 平成6年(1994)5月31日

(51)Int.Cl.⁵
H04B 7/26

識別記号 庁内整理番号
109 M 7304-5K

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全3頁)

(21)出願番号 特願平4-302106

(22)出願日 平成4年(1992)11月12日

(71)出願人 000004237

日本電気株式会社
東京都港区芝五丁目7番1号

(72)発明者 本多 俊夫

東京都港区芝五丁目7番1号日本電気株式
会社内

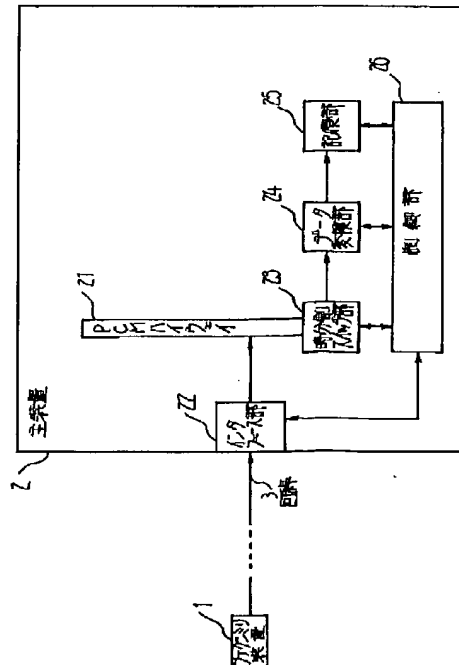
(74)代理人 弁理士 京本 直樹 (外2名)

(54)【発明の名称】 無線電話システムのシステムデータ登録方法

(57)【要約】

【目的】無線電話システムの主装置のシステムデータ登録をファクシミリ装置からデータを送信することにより登録できる事を目的とする。

【構成】あらかじめフォーマットの決められたシステムデータ登録用送信原稿をファクシミリ装置1から回線3を介して特番で主装置2へ送信すると、制御部26の制御によって主装置2内のファクシミリインタフェース部22を介して受信したデータを、データ変換部24がPCMデータからファクシミリデータに変換し、さらに解析してシステムデータに直す。変換、解析されたシステムデータは記憶部25に登録される。



1

2

【特許請求の範囲】

【請求項1】 システムデータ登録値を記入した原稿を送信するファクシミリ装置と、前記ファクシミリ装置に接続された無線電話システムの主装置とを備えて成り、前記主装置は前記原稿を前記ファクシミリ装置から受信し、受信データを解析してシステムデータに直し、前記システムデータを登録値として前記手段に記憶することを特徴とする無線電話システムのシステムデータ登録方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は無線電話システムのシステムデータ登録方法に関する。

【0002】

【従来の技術】従来の無線電話システムのシステムデータ登録方法は、電話機の複数のボタン操作によりシステムデータの登録を行っていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】この従来の無線電話システムのシステムデータ登録方法は、電話機の複数のボタンを操作し、電話機の表示部で確認しながら登録を行う方法となっているので、操作が複雑で覚えにくいという問題点があった。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明の無線電話システムのシステムデータ登録方法は、システムデータ登録値を記入した原稿を送信するファクシミリ装置と、前記ファクシミリ装置に接続された無線電話システムの主装置とを備えて成り、前記主装置は前記原稿を前記ファクシミリ装置から受信し、受信データを解析してシステムデータに直し、前記システムデータを登録値として前記手段に記憶する。

【0005】

【実施例】次に、本発明について図面を参照して説明する。

【0006】図1は本発明の一実施例を適用する無線電話システムのブロック図である。

【0007】図1において、本適用例の無線電話システムはシステムデータ登録用の送信原稿を送信するファクシミリ装置1と、ファクシミリ装置1に回線3を介して接続する主装置2とから成り、主装置2はファクシミリ装置1にインタフェースするインタフェース部22と、PCMハイウェイ21上のデータの時分割スイッチを行う時分割スイッチ部23と、PCMハイウェイ21、時分割スイッチ23を介して受信したデータをファクシミリデータに変換して解析するデータ変換部24と、シ

テムデータを記憶する記憶部25と、主装置2全体を制御する制御部26とを有して構成している。

【0008】次に、本適用例におけるシステムデータの登録方法について図1を用いて説明する。

【0009】システムデータ登録用の送信原稿はOMRシートのようにあらかじめフォーマットを決めておき、必要部分のみマークしておく。

【0010】記入したシステムデータ登録用送信原稿をファクシミリ装置1から宛先番号として特番を指定して主装置2へ回線3を介して送信する。

【0011】インタフェース部22はファクシミリ装置1からの送信データを受信して、ファクシミリデータからPCMデータに変換し、時分割スイッチ部23のPCMハイウェイ21上にのせる。

【0012】制御部26は、インタフェース部22が受信したファクシミリデータの宛先番号が特番であることを検出すると、システムデータ登録であると判断し、時分割スイッチ部23のPCMハイウェイ21上にのせられた受信データをデータ変換部24へ出力させる。

【0013】データ変換部24は入力されたPCMデータを一度、ファクシミリデータに変換し、さらにファクシミリデータを解析して、送信原稿に記入された登録用のシステムデータに直す。

【0014】データ変換部24で解析されたシステムデータは、記憶部25に記憶され、システム立ち上げ時の初期値として登録される。

【0015】

【発明の効果】以上説明したように本発明は、無線電話システムの主装置に接続されたファクシミリ装置から登録用のシステムデータを送信することにより、システムデータが主装置に登録されるので、従来の電話機からのボタン操作による煩雑さをなくすることができるという効果を有する。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を適用する無線電話システムのブロック図である。

【符号の説明】

- 1 ファクシミリ装置
- 2 主装置
- 3 回線
- 21 PCMハイウェイ
- 22 インタフェース部
- 23 時分割スイッチ部
- 24 データ変換部
- 25 記憶部
- 26 制御部

【図1】

